

普段使いの電子回覧板「結ネット」

「結ネット」は、町内会のお知らせや野々市市などからの情報をワンストップで見ることができるアプリです。アプリをダウンロードし、町内会を選択することで住んでいる地域の情報を受け取ることができます。町内会のほか下記の組織が結ネットで情報発信しており、ワンストップでたくさんの情報を受けとることができます。また、災害時用の安否確認機能も搭載しています。



メニューは町内会ごとにカスタマイズが可能です

結ネットを始めよう！

1 アプリをインストール

iPhone → App Store
Android → Google Play



2 結ネットを起動して「新規利用申請」

「町内会名」を入力し、検索・選択→利用者情報を入力・申請

3 パスワードを設定してログイン

町内会の結ネット管理者から承認通知が届いたら、パスワードを設定する

結ネットで情報を配信している団体の一例（配信予定も含む）

野々市市	・お知らせ	・広報紙	・防災情報
市教育委員会	「ののいちっ子を育てる」市民会議		
市連合町内会	情報交流館カメリア		
市社会福祉協議会	市商工会青年部		
富奥・郷・押野公民館	フレッシュじょんから市		
市観光物産協会	シルバー人材センター		

新規情報配信者も募集中！！

結ネット開発者に聞く

野々市生まれ、野々市育ちのアプリ

当社はパソコン用建築ソフトの開発などを主に行ってきた会社です。新しい分野への参入を試みていたところ、家にあった回覧板が目に入りました。「まだまだICT化が進んでいない分野だからこそおもしろいことができるのでは！」と思いアプリの開発を始めました。

結ネットの開発には、野々市の色々な人の声を取り入れられています。自分はまったくの専門外だったので、野々市で町内会長をしている同級生に相談。これが野々市とつながった瞬間でした。結ネットのメニューは、各町内会の要望に合わせてカスタマイズできます。この仕様となったのも、実は同級生の話がきっかけです。「ひとくくりに町内会といっても、それぞれに受け継いできた歴史や特徴がある、隣同士の町内会でも同じではない。」という話は、本当に目からうろこでした。システムの方を、町内会に合わせていくという姿勢が大切だと学びました。

平成27年には、あやめ町内会の協力で実証実験をスタート。徐々に他町内会にも広がり、そこで出た意見をさらに反映、改善を繰り返すことで結ネットの機能が確立していきました。

協働のまちづくりの担い手として

結ネットの開発は、ものづくりではなくまちづくりに参加しているという気持ちでやっています。地域を良くしたいと思う人たちとのつながりで、結ネットはどんどん良いアプリになっています。皆さんの意見を聞き、それを形にしていく。ソフト開発に長年携わっている私たちだからこそのできたことだと自負しています。これからも結ネットを通してまちづくりに関わっていききたいです。

もっと便利な野々市に！

株式会社シーピーユー
ICT 事業部長 数野 繁さん



【市制10周年特集】次の10年に向かって

ニューノーマル時代の町内会活動とICT

ともに創りともに育んできた10年間

令和3年11月11日、野々市は町から市になって10周年を迎えます。この間、野々市市は市民協働の推進を核にまちづくりを行ってきました。ソフト面では、「市民協働のまちづくり推進指針」の策定、「まちづくり基本条例」の制定を行い、ハード面では学びの杜ののいちカレイドやにぎわいの里ののいちカミーンを整備。野々市に住むみんなが住みよいまちを育むために、一歩ずつ歩を進めてきました。

町内会とICT

地域コミュニティの中心的な役割を担う町内会にも大きな一歩がありました。それはスマートフォンアプリ「結ネット」の導入です。結ネットは地域の電子回覧板といった存在で、必要な情報をいつでもどこでも確認でき、行事

次の10年に向かって

町内会活動のデジタル化は、コロナ禍における町内会活動を支える大きな柱でもあります。野々市での結ネット活用事例を学ぶために県内外の自治体から視察や問い合わせが相次いでおり、ウィズコロナ時代の今、その関心は全国的に高まりをみせています。今後ますます加速し活性化していくICTによるまちづくり、その可能性を結ネットの活用事例を通して紹介します。

※結ネットの活用状況は町内会ごとに異なります。市ホームページで公開しています。

などの出欠確認もとることができます。野々市市には54の町内会がありますが、現在全ての町内会※で結ネットを利用しています。実はこのように、市全域の町内会でICT（情報通信技術）を導入している例は少なく、全国的に見ても先進的な取り組みです。

新しい町内会活動を模索して

～丸木町会の場合～

結ネット登録 ID 数が 889 世帯中 513 と市内ナンバーワンである丸木町会（押野地区）。お知らせを受け取るだけではなく、住民自らも発信者となる仕組みを作り、双方向でのアプリ活用を目指しています。

町内会長の連絡組織である市連合町内会は、その運営に結ネットを一足早く取り入れてきました。導入の経緯や活用方法について、連合町内会長の藤田さんにお聞きしました。

町内会活動の負担軽減を目指して

～市連合町内会の場合～

01 違反ごみを写真付きで公開

捨てた人が持ち帰ったのか、投稿するとあっという間に、集積場からごみが消えます。

燃えないゴミに、プラスチック製品や木製の家具など出されています。これらは全て燃える粗大ゴミに出して下さい。今後、カメラの映像を公開するか検討中です。分からない時は、ゴミ辞典を参考にしてください。ゴミ辞典は、【結ネット】の「資料室」にアップされています。



丸木町会の

結ネット活用術

大公開！

02 地域の情報が集まるいどばた会議

家庭菜園の野菜の引き取り手募集や料理のレシピなど、皆さんからの情報を掲載。ご近所付き合いの場として活用しています。

03 回答機能を使って高齢者を見守り

結ネットに登録している 75 歳以上の人へ、週に 1 回安否確認の連絡をしています。受信者には「はい・いいえ」で回答してもらいます。もし未読状態が続いたら、町会長や民生委員が訪問します。

残暑厳しい毎日ですが、水分を充分取って熱中症に十分気をつけて下さい。この記事は 75 才以上の方にのみ配信しています。毎週月曜に確認の連絡を配信致します。配信不要の方は、下記の項目で不要に「はい」を選択してください。また、連絡事項が有る時は、ご意見箱に内容を投稿ください。役員の方は、回答不要です。

チェック項目	
体調に問題があります。支援が必要です。	☐ はい ☐ いいえ
粗大ゴミのお手伝いが必要です。	☐ はい ☐ いいえ
この連絡は不要です。	☐ はい ☐ いいえ
発信	

何でも聞いてね

丸木町会 ICT 推進員 堀 信夫さん

自分たちが必要だと思いを発信する

丸木町会では、週に 4、5 回発信を行っています。お知らせの内容はいろいろありますが、ごみの日の案内、丸木の歴史などのほか、運営している自分たちが必要だと感じた情報を発信することもあります。新型コロナワクチンの接種が始まったときに、たまたまとある病院で予約に空きがあると聞いたので、これはみんなにお知らせしたい、と思い結ネットで発信しました。この記事を見た数名が予約できたと聞き、ニーズのある話題をタイムリーに流せる結ネットの良さを実感しました。

最終的には、お互いが発信し合う双方向での利用をしていきたいと思っています。「サポート」や「ご意見箱」機能を活用して身近な困りごとを聞いたり、「いどばた会議」で情報交換し合ったりして町内会活動に生かしていく予定です。

情報をいかに届けるか

市などからのお知らせを地域の皆さんにお伝えすることが、町内会長の仕事の一つです。回覧板を回したり、広報紙を配布したりしていますが、受けとった人がそれをちゃんと見た、という確認がとれないことに課題を感じていました。実際に、広報紙でお知らせしていたことを「知らない」と言われたこともあります。また、若い人や県外から移り住んできた人でも、気軽に見られるツールがあったらいいなと思っていました。

身近なスマホが町内会との窓口になる

結ネットの一番の強みはスマホで見られることです。利用者にお知らせが直接届くので、回覧板が回ってくるまでのロスタイムがありません。また、過去のデータが残るので、読み逃した場合でも何度でも見直すことができます。発信者、受信者双方が便利だと感じる機能がたくさんあります。

状況に後押しされて

市連合町内会では今年の 3 月、全 54 町内会にタブレット端末とモバイル Wi-Fi ルーターを配布しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための ICT 活用、という点に加え町会長の平均年齢の若返りが導入の理由です。4、5 年前は 60 代だった町内会長の平均年齢が、今年には 50 代に。現役世代の方が多いため、今まで以上に町内会長の実務負担を軽減したいという思いがありました。情報発信、会議、書類の引き継ぎにタブレット端末や結ネットが利用されています。

次の 10 年につなげたい

一人一台スマートフォンを持つ時代になり、ますます IT が身近になる中で、長期的な視点で結ネットを形にできればいいなと思っています。町内会業務を効率化すれば、活動へ参加できる人も増え、持続可能な町内会運営につながると期待しています。対面のつながりが大切なのは言うまでもありませんが結ネットには、住民同士の交流を補完する存在になってほしいと思います。

結ネットは市民協働の一つ！

市連合町内会

会長 藤田

まさあき 雅顯さん

町内会運営を支える 3 つの強み

1 いつでもどこでも情報を発信・確認

台風接近や積雪、訃報など緊急性が高い情報でも、即時に配信できます。既読確認の機能もあるので連絡漏れを防げます。



2 出欠集計作業を軽減

お知らせに出欠回答を求める機能を搭載。総会や子ども会行事など出席者の人数を集計したいときにぴったりです。回答結果は自動集計できるので運営側の負担を軽減します。

3 災害時モード切替で安否確認も

災害時は町内会員にいち早く情報を伝達できます。会員は安否状況をボタンで選択することで速やかに自分の状況を伝えられます。

結ネットに関する主な出来事

平成28 (2016)年 市民活動団体「野々市市 54 町内会を支える会」が平成 28 年度 野々市市提案型協働事業に市民提案として結ネットの活用を応募。採択され、市内 10 町内会*で試験導入される。

*あやめ、野代、押越、若松、本町六丁目、菅原、下林、上林、太平寺、郷

令和元 (2019)年 9月 市と市連合町内会、株式会社シーピーユーの 3 者で「地域 ICT プラットフォームサービス『結ネット』の取り組みに関する協定」を締結

令和 3 (2021)年 3月 市内全 54 町内会にタブレット端末 (iPad) とモバイル Wi-Fi ルーターを 1 台ずつ配備。

令和 3 (2021)年 6月 Zoom ビデオウェビナーを使って町内会長向け結ネット研修会をオンラインで開催